

横浜市小学校社会科研究会

山元小 中学年部会

## 研修会記録

令和2年 10月 21日

横浜市小学校教育研究会

会長 相澤 昭宏

横浜市小学校社会科研究会

会長 梅田 比奈子

同 学年部長 廣瀬 貴樹

【提案日時】

10月 7日 (水)

提案 小泉 齋 先生 (山元小)

【会 場】

横浜市立丸山台小学校

司会 廣瀬 貴樹 先生 (大門小)

記録 岡村 伸一郎先生 (瀬ヶ崎小)

○3年生 小泉齋先生

【授業者より】

- ・ 単元名は「親子2人で約10万束のきれいでおいしい小松菜をどうやって作っているのだろう」
- ・ 教材はKさんの小松菜を取り上げる。神奈川の小松菜生産量は全国2位。Kさんは、年間約10万束を生産している。
- ・ 単元の導入では、小松菜の実物を見たり、10万束を視覚的に分かりやすくしたりしたため、子どもが関心をもって学習に入ることができた。
- ・ 山元小では、本気の学習問題の「成立過程」と「その子なりの納得」を大事にしている。授業の途中で「本気の学習問題」が成立する。
- ・ 本時では、小松菜の収穫時、きれいな葉でも外側の葉を切り取っていることから疑問を抱き、見た目を気にしているのはKさんなのか考えることを通して、Kさんは消費者の視点から数日先の見た目を考えていることに気づかせたい。

【質疑応答】

- ・ 前時の「どうしてきれいで食べられる葉を捨てるのだろう」が本気の学習問題と考えられるが、納得いかない子どもがいる中で「見た目を気にしているのはKさんか」という本気の学習問題が生まれる。
- ・ 消費者の視点で、家の人の思いが出てくるとよい。

○4年生 平本美峰先生

【授業者より】

- ・ 自然災害から人々を守る単元で、防災備蓄庫に2000食分を備えていることを取り上げる。
- ・ 本単元は、関東大震災や東日本大震災、今後起こりうる地震から、自分事として考えることができる材である。また、横浜市の避難場所や備蓄庫を調べることができ、身近な教材だと考える。
- ・ 備蓄庫に2000食では足りない点から、市の防災対策に発展したり、自助の重要性に気づいたりするようにしたい。

文責 小沢 暢志 (獅子ヶ谷小学校)